

『この国どんな国？』



各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。

今回ご紹介する国は
「モンゴル」



第7号(2008年7月23日)

モンゴルの基本情報

モンゴルは北はロシア、南は中国に挟まれた場所に位置し、日本の約4倍の広さがあります。国土の79%は草原という壮大な「草原の国」であり、また平均標高は1,500メートルで特に北西部には高い山が連なっています。年間平均降雨量は300ミリと少なく、乾燥しています。1年のうち最高気温は約40度、最低気温はマイナス30度と寒暖の差が激しいのも特徴の一つです。草原地帯には貴重種を含む数多くの野生動物が生息しており、また植物の種類も豊富です。モンゴルは1206年にチンギス・ハーンがモンゴル高原を統一しモンゴル帝国を建国したことがその始まりであり、その後220年にも渡る清朝の支配やロシア軍の侵攻など様々な歴史を経て独立を果たし、2006年には建国800周年を迎えました。

首都: ウランバートル
面積: 156万4,100平方キロメートル(日本の約4倍)
人口: 263万5,100人(2007年12月現在)
民族: モンゴル人(全体の95%)、及びカザフ人等
言語: モンゴル語、カザフ語
宗教: チベット仏教等
一人あたりGDP: 482.8USDドル(2006年)
経済成長率: 8.4%(2006年)

国章:



大使館情報

所在地: 東京都渋谷区神山町21-4
* JR渋谷駅から徒歩15分ほどの、江戸時代には紀州徳川家の屋敷があった松涛「しょうとう」と呼ばれる閑静な高級住宅街の一角にあります。

面会者: 駐日モンゴル国大使館
レンツェンドー・ジグジッド特命全権大使



今回お話を伺ったのは、駐日モンゴル国大使館のレンツェンドー・ジグジッド大使です。大使は日本の大学を卒業されており日本語が堪能で日本のことを大変よく理解されていました。

今後は日本の民間部門からモンゴルへの投資を呼び込みたいという思いを強く持たれており、モンゴルの魅力をいろいろと語って下さいました。(2008年6月30日に訪問)



出所: 外務省、駐日モンゴル大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は
「モンゴル」

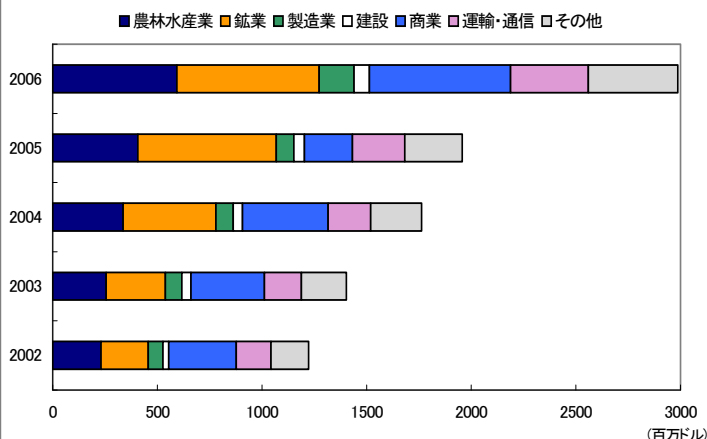
各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。



経済の概況

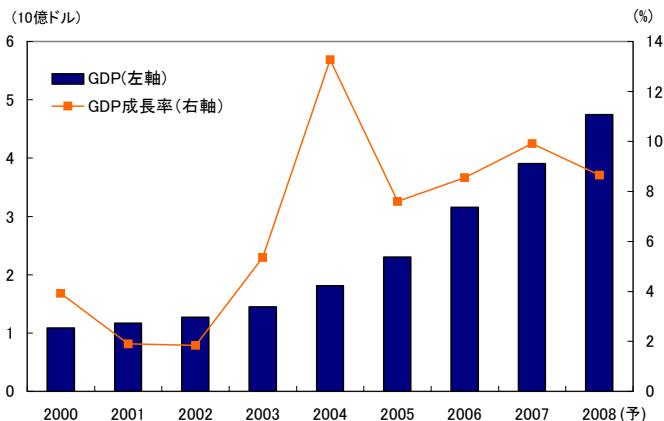
モンゴルの主要産業は畜産業を中心とした農林水産業、鉱業、観光業です。

1. GDPの業種別構成比(2002年-2006年)



国際的な資源需要の高まりと資源価格の高騰を受け、モリブデン、銅、金を中心とした鉱業が近年急速に成長しています。現在鉱業はGDP構成比約30%の最重要産業となっています。 出所: United Nations

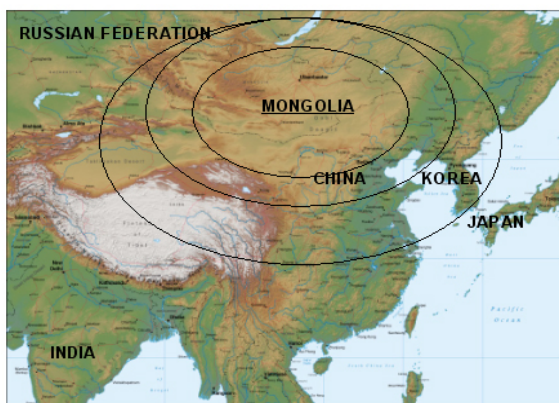
2. GDPとGDP成長率(2000年-2008年)



GDPは、2003年以降年率8%以上の高成長を続けています。ロシア、中国など隣国の経済成長と、資源価格の高騰がGDPの成長に大きく貢献しています。 出所: IMF

対外関係

1. モンゴルの位置



モンゴルは成長の著しい中国、ロシアという2大国の中間に位置し、これらの国の影響を強く受けています。

出所: 駐日モンゴル国大使館

2. 経済自由度ランキング(2008年)

順位	国名	スコア
1	香港	90.25
2	シンガポール	87.38
4	オーストラリア	82
6	ニュージーランド	80.25
17	日本	72.47
25	台湾	71.03
41	韓国	67.88
51	マレーシア	64.54
54	タイ	63.49
62	モンゴル	62.78

経済の自由度はアジアで30カ国中10位、世界では157カ国中62位となっており、他の新興国、資源国と比べると比較的自由度は高いです。

出所: 米ヘリテージ財団



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『この国どんな国？』



各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。

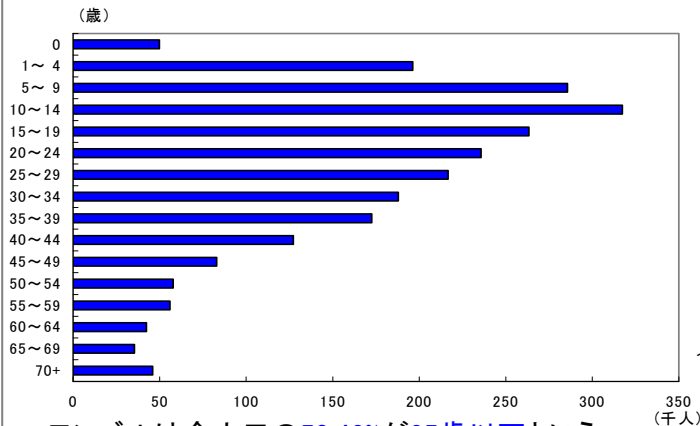
今回ご紹介する国は
「モンゴル」



労働力

モンゴルには若くて優秀な労働力が豊富に存在し、労働コストも安価です。

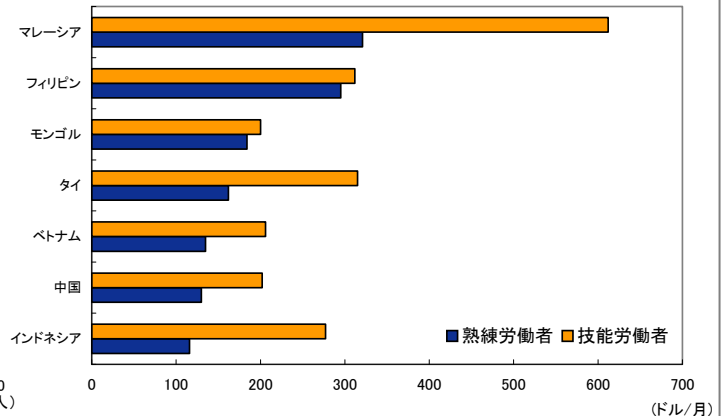
1. 年齢別人口



モンゴルは全人口の**50.42%**が**25歳以下**という、非常に若い国です。また、人口は年々増加しており、過去6年間人口増加率は**11.4%**となっています。

出所：総務省統計局「世界の統計2008」

2. 労働コスト

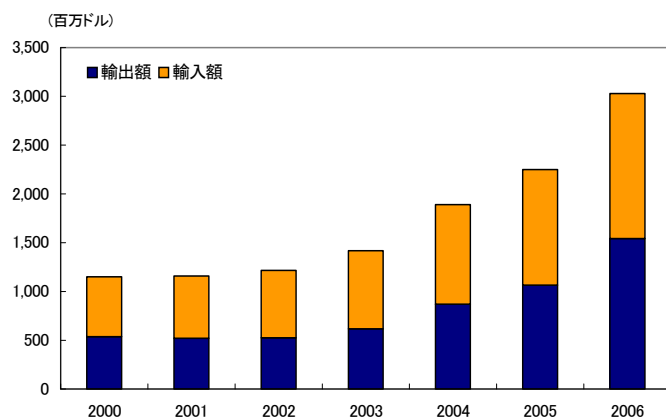


労働コストは他の新興諸国と同様に安価です。特に技能労働者の労働コストは新興国の中でも最低水準となっています。

出所：FIFTA

貿易

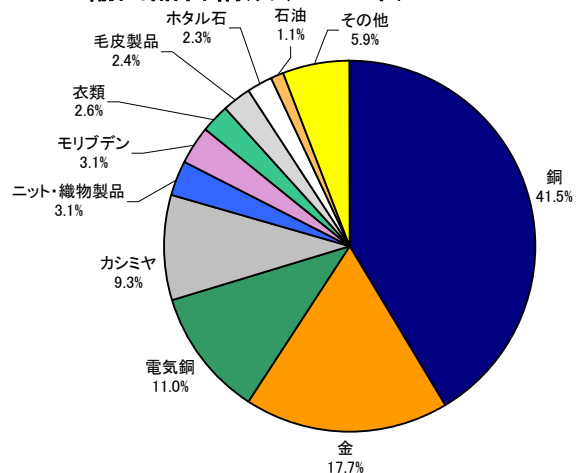
1. 貿易額の推移 (2000年-2006年)



輸出、輸入ともに年々増加しており、貿易額は6年間で**約3倍**になりました。特に中国、ロシアとの貿易が盛んで、これら2カ国との貿易が全体の**約70%**を占めています。

出所：駐日モンゴル国大使館

2. 輸出品目構成 (2006年)



主要輸出品目は鉱物資源で、銅、モリブデン、蛍石、金などで輸出全体の**64.6%**を占めています。

出所：駐日モンゴル国大使館



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は
「モンゴル」

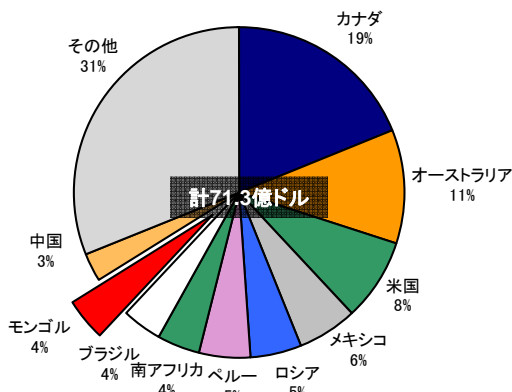
各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。



資源開発

モンゴルでは、世界的に需要が高まっている鉱物資源開発に特に力を入れています。

1. 世界の探鉱費用(2006年)



モンゴルの国土の75%は未だ未開発であると言われており、2006年には約3億ドル(世界シェア4%)もの費用をかけて探鉱開発を行なっています。

2. 鉱業投資額と生産量(1997-2007年)

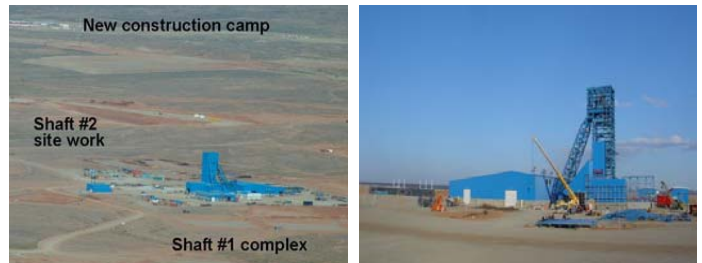


モンゴルでは様々な種類の鉱物資源を産出しており、投資額の増加に伴い生産量も近年急激に増加しています。

銅1,500t、金340tの埋蔵量を誇る
世界最大級のオユトルゴイ鉱山

3. 世界最大級の金鉱開発

ゴビ砂漠南部、首都ウランバートルから550kmの場所に世界最大級の金・銅鉱山であるオユトルゴイ(Oyu Tolgoi)鉱山があります。この鉱山はカナダの鉱山会社が探鉱を進めてきたもので、現在モンゴル政府や海外資源メジャーとの間で今後の開発計画に関する話し合いが行なわれています。この鉱山開発はモンゴルのGDPの5%強に相当する巨額の収入源になる、国家の最重要プロジェクトとされています。



出所: MRPAM、U.S Geological Survey、JOGMEC、Ivanhoe Mines

訪問を終えて

モンゴル経済はここ数年高い成長を続けており、今後も鉱物資源の生産・輸出量増加による海外からの資本流入や、鉱山開発等による直接投資の増加が期待できるため、中長期的な成長性は非常に高いと考えられます。しかしながら、短期的には消費者物価の上昇が顕著になっており、インフレの影響による経済成長の減速が懸念されます。また、先日行なわれた総選挙の結果をめぐって国民による暴動が起きるなど、政治的なリスクも懸念材料の一つです。新政権による国内情勢の早期安定化、鉄道や道路など積極的なインフラ投資による経済の活性化、オユトルゴイ鉱山の早期開発などを期待したいところです。(これらは全て2008年6月末現在の情報です)



取材・編集: スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。